



本城に狼煙上がる!!



10月9日、松本市特別史跡の平瀬城跡本城（下田・山田地籍）と平瀬氏館跡（平瀬川西地籍／川合鶴野宮八幡社北側）を会場に、平瀬古城会主催による狼煙まつりが、初めて開催されました。

平瀬氏館跡の狼煙を合図に、本城では狼煙上げや火縄銃・和太鼓が披露され、会員など関係者50名が参加しました。

び、実際に畑でテストを行いました。さらに、本城への大鼓・火縄銃等の運搬方法などもシミュレーションを重ねました。その甲斐あって、本番は多少風の影響を受けながらも、成功裏に狼煙が上がりました。逢澤征夫顧問は「紆余曲折あったが、盛大な狼煙まつりとなった。来年は、他地域とも連携してみたい」と意欲をのぞかせていました。

平瀬城跡や島内の歴史文化財関係者等で組織された同会は、「本城跡で狼煙を上げたい」「火縄銃と和太鼓を披露するイベントを行いたい」との委員の希望を受け、6月から運営委員会を開き、準備を進めてきました。辰野町で狼煙の上げ方を学



令和3年11月1日現在	
総人口	12,479人
男	6,092人
女	6,387人
世帯数	5,355世帯
島内公民館	電話 47-0264
	FAX 40-1264



杉葉をつめて準備 (館跡)



轟く銃声!! 信州松本藩鉄砲隊



太鼓演舞で加勢 桔梗太鼓



落城の戦死者を弔う

「20周年展」の同時開催を予定しています。抽選による記念

に励んでいます。地域貢献にと、中学校の総合学習や子供会、シニアクラブなどで陶芸教室なども開催してきました。今年も、島内公民館主催の陶芸講座を2日間、初めて窯場の作陶室で開催し、楽しく作品づくりにチャレンジして頂きました。作品は10月末の穴窯で焼成しました。

赤松の薪を活用した「新しい陶芸村を創ろう」と発足しました。これまで、延べ100名を超える会員が集まり、現在は約30名の会員が、穴窯と電気窯を使いながら作品制作

山田炎の会は、平成12年に発足して22年目を迎えました。山田地籍周辺は、平安時代の頃に須恵器等が生産されてきました。100箇所以上にも及ぶ穴窯の遺跡は、当時この地が須恵器産業の拠点であったことを示しています。

新しい陶芸村を創ろう 山田炎の会 20周年



午後の特別ステージでマジックなどを披露する安曇亭鈴虫(十枝 功さん)

会場に、ステージ発表や作品展示、リサイクル本配布などが行われました。当初、選挙と重なることから中止も検討されましたが、日程がずれたため、例年どおり開催されました。

品プレゼントも計画していますので、ぜひご来場ください。山田炎の会会長 大沢 千尋



穴窯見学 (島内公民館陶芸講座)

小宮町会作品展

地域の絆をつなぐ場

小宮町会では、毎年8月16日に、町内の作品展展示会を開催しています。公民館の隣に墓地があり、「家族一緒にお墓参りをする際、立ち寄って観て欲しい」と、送り盆の日に合わせており、50年以上続いています。帰省されている方や小学生の作品展コーナーもあり、毎年200名以上の方が来場されます。多種多様な作品の展覧は90

点を超えます。制作者がいつも快く出展して下さることが嬉しく、展示会が開催できることに安堵感を覚えます。コロナ禍の中での実施については、出展者などの関係者と話し合いを重ねました。連続と続いている町内行事であり、「地域の絆をつなぐ場」として、感染防止対策をしっかりと行いながら無事開催することができました。

今後は、新たな制作をされている方々を探し、出展を募り、伝統ある公民館行事を、



益々盛大にしたいと思っております。小宮公民館長 清水口 治雄

令和3年度指導者視察研修会

「白樺湖を白樺村へ」

今年7月、町会長や町内公民館長などの地域の指導者を対象とした「島内地区指導者視察研修会」で、白樺湖の池の平ホテル&リゾートを訪問し、矢島義拡社長の講演をお聞きしました。

そのなかで、一番印象に残っているのが「白樺湖を白樺村にしたい」というお話でした。白樺湖周辺エリアを単なる観光地に終わらせるのではなく、そこで暮らす人々が自然と調和しつつ、自然を楽しみ味わう力を身に付ける。その上で、訪れる観光

客と仲間のよう交流できるような「新しい白樺村をつくりたい」という内容でした。この発想は、中学生の時に祖父とスイスの山岳リゾート「ツェルマット」に滞在したことが原点となっています。ここでは、500年以上経つ家を大切に使い、名峰・マッター



ホルンの景観を妨げないように過度な開発を避けたり、電気自動車を使ったりと、村を挙げて美しさを保つ取組みが進められています。何より、住民たちがそこでの生活を楽しみ、自然のなかで遊ぶプロとして、訪れる人たちに魅力を伝えながら生活しているということでした。

話をお聞きして、自分の地元を考えたとき、明治7年に島内村が誕生してから147年。先人たちが築き上げてきた歴史や伝統、文化が地域活動の様々な場面で、今日まで脈々と引き継がれていることを改めて感じました。

高松町会長 高山 潔

わたしたちの活動③

島高松町会「花を育てる会」

島高松町会では、長寿会の皆さんが40年に渡り、あずきセンター運動公園周辺をサルビア一色にして、霜が来るまで真っ赤な花を咲かせてきました。一方、担い手不足の影響から、活動継続への問題もありました。

そこで、幅広く若い人たちへも参加を呼びかけて活動を発展させるために、平成29年から名称を「花を育てる会」に変更しました。

当会では「一年中草花が咲き、美しく心癒せる花壇にしよう」という目標を掲げ、45名の会員が管理機で土を耕し、草むしりを定期

新たな防災備品島内へ

このほど、第一生命保険松本支社から地域防災の備品として、簡易テント15基と簡易トイレ4基が島内地区へ寄贈されました。

簡易テントは、収納ケースから取り出すとパッと開き、高さ約2m、内部は1m四方の広さがあります。更衣室や屋外トイレ、シャワールームなど多方面での使用が可能です。また、簡易トイレは椅子



的に行っています。また、あずきセンターや公民館に、春は日々草やマリゴ、秋からはパンジーやビオラやチューリップを中心に、それぞれ500株以上の苗の植え付けをします。会員同士のふれあいの場もあり、一人ひとりが充実した活動を行っています。ぜひ私たちの植えた花を見て、皆さんの心を癒してください。 会長 堀内 達雄



方式で袋状の使い捨て吸水シートをセットして使います。宮田町会連合会長は「災害時の避難所ではプライバシーの問題は重要。活用したい」と話していました。